

# 間伐材の利用を図りながら 森林、林業の再生を目指す

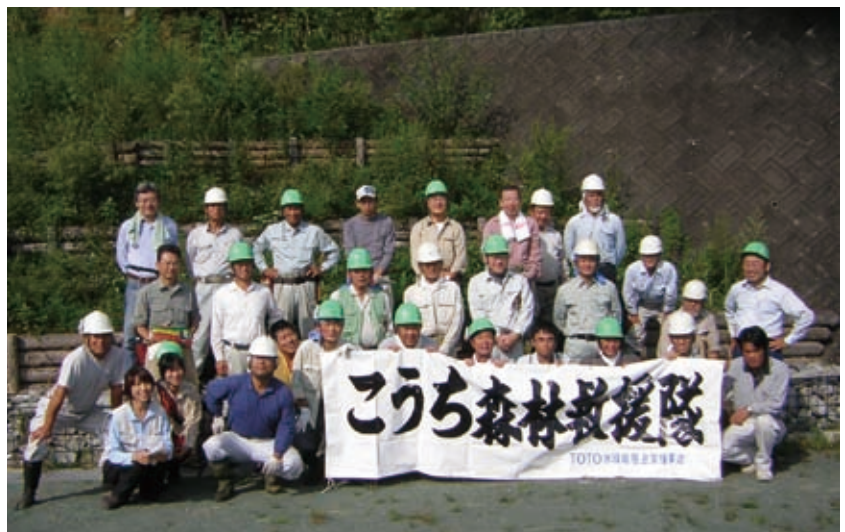
## こうち森林救援隊 (高知県)

地域との関わりを大切に…  
森林と地域の再生活動を展開

平成一七年一月、高知県土佐郡の鏡村と土佐山村が高知市に合併し、市民の水瓶で命の源である清流「鏡川」の源流から河口までが単一の行政区画となりました。この合併によって高知市の森林面積は約三倍に増えたことから、鏡川の清流を守るための森林整備や、源流域から河口までの一貫した環境整備を行うことを目的として、平成一七年一月に高知市役所の職員が中心となってボランティア団体「こうち森林救援隊」が立ち上がりました。「高知県は植林された森林率が全国一です。戦後から昭和四〇年頃に植えられたものが殆どで、その人工林が間伐されなままの状態です。環境破壊の元凶に言われていますが、それを少しでも間伐をして陽を入れることによって、山の再生を図っていこうと活動しています」と話す「こうち森林救援隊」隊長の中川睦雄氏。

発足当初は一五名程度だった隊員が、現在は約二〇〇名。市の職員、国・県の公務員、一般市民・県民、大学生、女性隊員など、多種多様な分野から老若男女が集い、目的達成のために活動を続けています。

「昨年度は七〇回ほどの活動を行いました。定例会は月に一度行なっていますが、鏡川の源流域近くに泊り込み、二日間の間伐を行う



こうち森林救援隊のメンバー

ことが基本になっています。地域との関わりを大切にしていますので、地元の公民館を利用させていただき、地域の人たちと交流しながらの活動となっています」（中川睦雄氏）  
「こうち森林救援隊」は間伐活動だけに留まらず、地域振興や林業の再生にも積極的に取り組んでいます。

「間伐材をいかに有効に活用していくかを考えないと、山の整備も進まないし、地域の活性化にも繋がっていきません。現在、間伐材



間伐材を製材



間伐材でベンチを制作



完成した間伐材でのベンチ



鏡川周辺での間伐作業

data

〒780-0951

高知市西塚ノ原 105-24

(問)088-843-7440

は可能な限り市場に出しています。さらに間伐材に付加価値を付けるために自分達で製材し、そのできた材料を椅子やテーブルなどの木工製品に加工して、市内の取扱店で販売もしています。市場に出せない間伐材については木工教室の材料に使ったり、端材についてはバイオマスの原料としてNEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）のプラント工場に搬送するなど、間伐材の徹底した利用を図りながら森林の整備や林業の再生、中山間地域の振興を目指しています」（中川睦雄氏）

間伐材の有効利用を多くの人たちに知って

もらうため、毎年、一月にボランティア祭りを開催しており、今年は一月一日に行いました。「ボランティア祭りでは木工の実演をしたり、完成した製品を販売したりしています。このようなイベントを行うことにより、間伐材の有効利用の取組を地域に広めていければと願っています。今後とも、積極的に森林の整備や林業の再生に繋げていけるような活動が続いていきますが、決して自分達の活動だけで満足するのではなく、間伐材の有効利用を地域の中にシステムとして根づかしていければと考えています」（中川睦雄氏）